

患者の皆様へ

2017年12月12日

肝胆膵外科

現在、肝胆膵外科では、「転移性肝癌治療における周術期化学療法の意義」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では、2001年以降の転移性肝癌の患者様の診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「転移性肝癌治療における周術期化学療法の意義に関する後ろ向き研究」

2. 研究の意義・目的

転移性肝癌に対する手術前、後に行う抗がん剤治療の効果を明らかにし、より効率よく、副作用の少ない治療法を確立する。

3. 研究の方法

2001年4月1日以降、診療録に記載されている身長、体重、病歴、血液検査値、画像検査の所見、切除標本の病理検査所見、手術や抗がん剤治療の内容を調査し、これらのデータと治療成績（再発、予後）との関連を明らかにする。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院肝胆膵外科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院肝胆膵外科

医師 酒井望

043(222)7171 内線〇〇〇〇